

## 第1回 VICS プローブ懇談会 議事要旨

## 1. 開催日時・場所

日 時；平成17年6月29日(水) 18:30～

場 所；航空会館 501、502会議室

## 2. 出席者

桑原(座長)、赤羽、水井、森川、秋山、高田、今井、黒瀬(代)、黒崎、浮穴、岩越、中村、岩貞、清水、時津、瀬戸、辻、藤井、小林、室城、森、宮地

(敬称略、順不同)

代理出席の委員は(代)と標記

## 3. 議事概要

- ・ 情報提供は多言語で行う方が良く、技術的にも可能。
- ・ VICSシステムを活用してプローブ情報を提供する試みは、非常に期待出来る。今後も推進すべき。
- ・ 日本にはVICSリンクという立派なものが出来ている。VICSリンクを活用して、各種デジタル地図間で統一されたリンクの定義が必要。
- ・ レーン・バイ・レーンの情報はユーザーニーズが高い。
- ・ 光ビーコンは、レーン毎に設置してある。将来的に各レーンの情報収集・提供へ活用する事が可能。
- ・ 生活道路への迂回車両の進入は、情報提供、経路検索の両面から防止するようになっている。むしろ、生活道路・細街路への進入防止に役立っている。ただし、「生活道路」をより利用実態に即した形で電子地図に組み込む等の取り組みが望まれる。
- ・ レベル1の情報(文字情報)はなかなか理解しにくい。出し方や、タイミングについて工夫が必要。
- ・ プローブ情報を様々な道路交通情報提供主体間で共有し、利用者がメリットを享受出来る事が必要。
- ・ VICSプローブを中心に懇談会では議論するが、その他のプローブとの関係についても考慮する。
- ・ 個々の移動主体が目的地に到着するまでを対象とした交通状況の短期予測技術が、道路交通情報の精度を改善する上で、今後ますます要求される。
- ・ 現在使われているメディアの一つであるFM多重放送は伝送容量が小さく、使い勝手は必ずしも良いとは言えない。
- ・ 地上デジタル放送など、他のメディアの発展の動向も考慮すべき
- ・ VICSセンターは、情報収集は行っていないが、ユーザーから見れば、VICSは収集系も含めたトータルなシステム。今回は、提供系へ目配せをしながら、収集系への議論をしていくと考えている。
- ・ 規格・仕様の方向性は、VICSの全体の今後の方向性。車載機等の各部分でどうなるという議論までは想定していない。

以上